

# 2022年度の和歌山大学防災士養成講座

## Bousaishi Training Course in Wakayama University for FY2022

此松 昌彦<sup>1</sup>

<sup>1</sup>教育学部

### 1. はじめに

近年、風水害などの自然災害の激甚化、頻発化しているとともに、和歌山県をはじめ西日本沿岸部では今世紀のどこかで南海トラフ地震の発生による巨大災害が心配されている。このような状況の中で、内閣府では巨大な自然災害により失われる命を激減させていく新たな方策について検討するため、ワーキンググループを立ち上げて、2021年5月に「防災・減災、国土強靱化新時代の実現のための提言」（内閣府、2021）として発表した。

その中で特に防災士などは地域での防災力向上のための人材として期待されており、地域の災害ボランティア人材としても期待されている。さらにボランティアとしての研修をつむことで、避難生活支援などの災害専門ボランティアとしても期待されていると読み取れる（災害ボランティアチーム提言、2021）。このように防災士は災害ボランティアをはじめ、地域の防災について学んだ防災に対してモチベーションの高い人材として、自治体や自主防災会などでも期待されている。

この防災士は NPO 法人日本防災士機構（以下機構という）が認証している民間の資格である。機構の防災士認証登録者の年度別推移によると 2022 年度では2003年の創立から累計 253,662 名が認証されている（日本防災士機構、2023）。この資格を取得するためには民間研修機関、自治体、教育機関において指定講座を受講して、防災士資格取得試験を受験して合格する必要がある。実際にはそれ以外に指定された救急救命講習を別に受講し、5年以内の修了証があつて機構への防災士登録申請が可能となる。機構ではそれらを確認して防災士認証状と防災士証

を交付することになっている。和歌山県においては自治体として和歌山県が参加しており、地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」においてオプションで資格を取得できるようにしている。

和歌山大学と同じように全国の大学等においても防災士養成機関として認証されている。機構のホームページによると 2023 年度予定として大学等教育機関では 49 機関（専門学校・高校を含む）と記載され、日本防災士機構（2021）のパンフをみると 2021 年7月現在では防災士養成する教育機関として認証されているのは 35 校で、大学、専門学校、工業高等専門学校、高校からなる。それからも増加しているのがわかる。特に国立大学法人においては、この2年間に弘前大学、信州大学が加わり、名古屋大学、和歌山大学、山口大学、徳島大学、香川大学、愛媛大学、鹿児島大学の9大学になっている。国公立大学は西日本に多い傾向があり、将来の南海トラフ地震に備えてという傾向があるのかもしれない。また上の内閣府の提言でも防災士が地域の防災力向上に期待されていることからニーズが高まっている資格であることがわかる。和歌山大学においては2017年度から防災士養成の教育機関として認証され、防災士養成が始まり現在に至っている。

### 2. 2022年度の和歌山大学における防災士養成講座の実施状況

#### 2.1 2022年度の防災士養成の準備

2020年度の防災士養成講座、それまでの養成講座概要については此松（2021）において示している。

2022年度も和歌山大学防災士養成講座は2020年度、2021年度同様にコロナ過ということで、短期集

中の対面型公開講座形式の2日間で災害科学レジリエンス・共創センターが主催として開催した。それは一部の防災士養成講座向けの大学の防災関連講義はオンデマンド対応となり、機構が認証の基準とする全て対面講義では不可能となったためである。

開催は2020年度、2021年度と同様に2023年3月の防災士養成講座として開催することになった。参加者も昨年度と同様に学内関係者(学生・大学院生・教員・職員・南紀熊野サテライトと岸和田サテライトの受講生など)だけに行うことを決めて募集を行った。前年度より早く周知させるため2022年9月8日より災害科学・レジリエンス共創センターホームページに掲載して、学生には教育サポートシステムに案内を投稿することで周知案内を行った。防災士養成講座募集要項から以下に重要なポイントを記載しておく。なお申込は2021年度と同じように募集要項へURL(QRコード)を付けてネットで申込フォームへ入力してもらう方式で行った。

#### 日程等

講義日時: 2023年3月6日(月)9:00~17:10・  
3月7日(火)9:00~17:00(2日間)

資格試験: 2023年3月7日(火)17:20~18:20

場所: 和歌山大学栄谷キャンパス内(和歌山市栄谷930)

費用: 6,500円(テキスト代 3,500円、受験料 3,000円(税込))

募集定員: 100名

募集〆切: 1月20日(金)16:00まで(締切厳守)

・2021年度と同じ3月第2週の月・火で開催した。  
ちなみに受講申込〆切 1月31日(月)16:00であった。早くなったのはテキストを試験期間中に学生へできるだけ手渡しできるようにしたためである。

#### 受講できる条件

- 1) 和歌山大学に在籍する学部生、院生、研究生、科目等履修生、学部開放科目受講生(サテライト)、教職員(客員教員、研究員を含む)
- 2) 2日間の講座の全てのカリキュラムに対面で参加できる方
- 3) 事前のレポート課題を提出できる方(詳細は募集要項を確認してください)

4) 防災士テキスト代と資格取得試験受験料を申込み時に支払える方

申込後の作業として、以下のことを受講生と事務局は行った。

1) メールで申込者へ資格取得受験料とテキスト代の前払い案内を送る。申込者は和歌山大学防災士養成講座の銀行振込口座に振り込んでもらい、正式に申込完了になる。

2) 事前課題レポートの所定の書式(ワード形式)を受講生に送る。2日間の集中講座で実施しない講目は、事前にテキストを読んでレポートを提出してもらおう。ちなみに防災士テキストでは災害発生のしくみ、災害に関する情報、公的機関や企業等の災害対策、共助、防災士制度の内容に沿って第21講と4補講の25講目に分かれおり(此松, 2021)、すべてを対面講座とレポート措置で対応しないと講座の終了にはならない。提出はメールの場合: 3月3日(金)16時までか、紙媒体で3月6日の選択にした。レポートは13講目あった。以下にその13講目を示す

- ・火山災害
- ・広域・大規模火災
- ・災害関連情報と予報・警報
- ・被害想定・ハザードマップと避難
- ・行政の災害救助・応急対策
- ・復旧・復興と災害者支援
- ・災害医療とこころのケア
- ・ライフライン・交通インフラの確保
- ・企業・団体の事業継続
- ・地震・津波への備え
- ・風水害・土砂災害等への備え
- ・災害と損害保険
- ・地域防災と多様性への配慮

## 2.2 2022年度の防災士養成講座の実施状況

### 1) 受講者構成

受講者は28名であり、所属構成は以下のようになった。2021年度は24名からは増加している。

- ・学部生 21名(18名: 2021年度)
- ・大学院生 1名(2名)
- ・学部開放科目受講生 4名(岸和田サテライト(3名))
- ・教職員 2名(2名)

表1 2022年度の防災士養成講座カリキュラム

期数	時間	講義内容	講師	所属	
1日目 (3月6日)	9:00	受付			
	9:15~9:30	オリエンテーション			
	9:30~10:30	地震・津波による災害	此松昌彦	和歌山大学	
	10:40~11:40	近年の自然災害 甚害	此松昌彦	和歌山大学	
	12:30~13:30	防災士に期待される活動	早稲田真廣	日本防災士会和歌山県支部長	
	13:40~14:40	気象災害・風水害	江種伸之	和歌山大学	
	14:50~15:50	土砂災害	江種伸之	和歌山大学	
	16:00~17:00	災害情報の活用と発信	塚田晃司	和歌山大学	
17:00~17:10	事務連絡				
2日目 (3月7日)	9:00	受付			
	9:15~9:30	オリエンテーション			
	1	防災士が行う各種訓練(講義と演習) 被害想定・ハザードマップと避難、 DIGを含む実践型演習	此松昌彦・ 宮定 章	和歌山大学	
	2	甚害			
	3	12:30~13:30	耐震診断と補強	平田隆行	和歌山大学
	4	13:40~14:40	自主防災活動と地区防災計画	宮定 章	和歌山大学
	5	14:50~15:50	行政の災害対策と危機管理	片家康裕	和歌山大学客員教員(和歌山県 危機管理庁災害対策課)
	6	16:00~17:00	災害ボランティア活動	南出 考	和歌山県社会福祉協議会
7	17:20~18:20	防災士資格取得試験			



写真1 研修講座の講義風景



写真2 ワークショップ風景

## 2) 対面型養成講座の実施状況

防災士養成講座は表1のように3月6日(月)、7日(火)で開催した。防災士教本はこの対面で受講する講目とレポート講目の21講目と補講4の全25講目を受講することになっている。事前にレポートを提出してもらい、全ての講目で学んだことで研修機関としては修了することになる。対面講座は2日目午前最初に此松がオリエンテーションを行い、2日間の予定や注意事項を話して、1時間ごとの講座を受講してもらった。学生や社会人も一緒に夕方まで受講する研修講座である。講師は学内者5名、客員教員1名、学外者講師は日本防災士会和歌山県支部長、和歌山県社会福祉協議会職員に来ていただいた。

特に2日目の午前中に図上訓練を取り入れた実践型のワークショップ(神戸市消防局の災害協力シミュレーションゲーム「ダイレクトロード」)を行った。昨年度はちなみにHUGという避難所運営ゲームを実施した。

ダイレクトロードでは災害が発生したときにどんな状況なのかを知り、どのような行動をとるのかを考えるシミュレーションゲームである。写真2のように7人グループを4組作り、与えられた情報をもとにいろいろと行動を考えていく。テーブルの上では写真3のように大きな図面を使って実施し、多くの情報から付箋紙に張りつけて誰さんがどこに住んでいる人なのかを推測し、災害の対応について考えて行動したりするものである。



写真3 ワークショップでの卓上図面

防災士養成講座終了後には、機構主催の防災士認定試験が行われ全員が受験した。

### 3. 受講者アンケートの結果について

受講者についてアンケート調査を行ったのでここで結果を示す。なお 2021 年度の同じアンケート結果は今まで掲載されていないため、比較の意味で両方掲載する。

#### 質問 1 アンケート回答者属性

	2022 年度	2021 年度
学部生	20 名	16 名
大学院生	1 名	2 名
サテライト受講生	4 名	1 名
教職員	2 名	1 名
回答者合計	27 名	20 名

#### 質問 2 この養成講座を何でしりましたか。



図1 防災士養成講座を知った要因

図1のように2021年度は大学からのメールが大きな要因になっていたが、2022年度も大きな要因になっているが、ホームページや災害ボランティア団体や岸和田サテライトからの働きかけもきっかけになっている。

#### 質問 3 防災士について以前から知っていましたか。

防災士については知っていたが2021年度、2022年度とも40%、45%で知られており、聞いたことがある程度を含めて、70%、67%で結構知られており、残り3割が知らなかったようだ。

防災士についての認知度が上昇し、防災士の資格を取りたい学生は増えてきているようだ。

#### 質問 4 受講しようとしたきっかけは何ですか（複数回答可能）

図2のように一番多いのは防災について学びたいという理由で、就職活動に利用できると考えているのも多い。

#### 質問 5 防災士養成講座のレポートいかがでしたか。

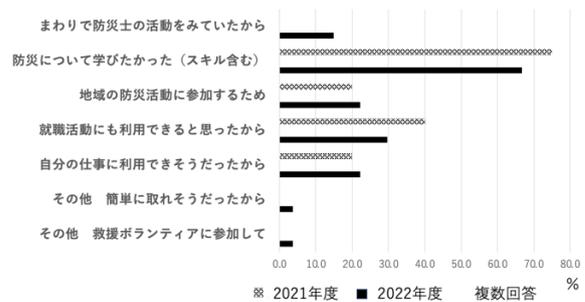


図2 受講しようとしたきっかけ

2022年度は2021年度よりテキストから短くまとめるのが大変は85%から70%に減少し、まとめる時間が少ないというその他の意見もあった。

#### 質問 6 あなたにとって講義の難易度を教えてください。

5段階評価で1の難しいは無く、その他の2から5までのやさしいまでであった。特に3の中間が一番多く、4, 2, 5の順に多く、2021年度、2022年度ともに同じ傾向であった。他にもアンケートでは聞いているが、またの機会にまとめたいと考えている。

### 4. これからについて

これからはコロナ過が明けてくることで大学講義も従来の対面授業が可能になる。今後は今までのように集中講座形式を維持できるか、社会人のニーズもあればカレントとして追及できる可能性があり、大学生にとっても複数の研修機会の提供になる。

### 参考文献

内閣府 (2021) : 防災・減災、国土強靱化新時代の実現のための提言 (令和3年5月25日)  
<https://www.bousai.go.jp/kaigirep/teigen/index.html>

災害ボランティアチーム提言 (2021) : 防災・減災、国土強靱化新時代の実現のための提言 (令和3年5月25日) [https://www.bousai.go.jp/kaigirep/teigen/pdf/teigen\\_07.pdf](https://www.bousai.go.jp/kaigirep/teigen/pdf/teigen_07.pdf)

日本防災士機構 (2021) 防災士 防災士30万人への船出 防災士パンフレット

日本防災士機構 (2023) 防災士認証登録者の年度別推移 . <https://bousaisi.jp/wp-content/themes/fcvanilla/pdf/ninshiy-data3.pdf>

此松昌彦 (2021) 和歌山大学の防災士養成講座, 和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター年報1, 21-27.